

# 風で陽光で チカチカ

日立市立助川小（岩波英一校

長）に、太陽光と風力でLED（発光ダイオード）の電球を点滅させる「自然エネルギー検知器」が完成した。自然のエネルギーで電気が発生していることを一目で分かるようにしており、学校は「児童の環境への関心を高めたい」としている。

検知器は、太陽光パネルと、

直径1材の羽根を5枚付けた風車で起こした電気をバッテリーに充電すると、風車と太陽を形取ったパネルのLED電球が点滅して発電状況を表す仕組み。太陽光で35ワ、風力で50ワの発

電ができるという。

自然エネルギーの学習をしている5年生が風車と太陽のデザインを考え、市内の小学校で理科の授業のお手伝いなどをして、いる日立製作所OBの技術者



## 小学校に発電「検知器」

「理科室のおじさん」4人が検知器を手作りした。

理科室のおじさんのひとり、関幸一さん（69）は、25日の検知器除幕式で、「自然エネルギーは二酸化炭素を発生せず、地球温暖化を遅らせることができると、などと5年生76人に説明。児童らは「発電量はどれくらい」「電は電気に使えないの」などと興味深そうに尋ねていた。

太陽光と風力による発電状況を、一目で分かるようにした「自然エネルギー検知器」の除幕式